

## 高次脳機能障害の方の特徴と対応の基本

### 特徴

- とても疲れやすくなる。
- 思考のスピードが遅くなる。
- 新しいことを覚えにくい。
- 感情のコントロールがしにくい。
- コミュニケーションがうまくいかない。
- 段取りよく、物事を進められない。
- 図や表示の意味がよく分からない。



### 対応の基本

- 受傷後、日常生活や対人関係、仕事などがうまくいかず自信をなくし、混乱や不安の中にいることを理解しましょう。
- これまでの生活や人生観などを尊重した関わりを持つようにしましょう。

### 具体的には

- ゆっくり、分かりやすく、具体的に話します。
- 情報は、メモに書いて渡し、絵や写真、図なども使って分かりやすく伝えます。
- 何かを頼むときには一つずつ、具体的に示します。
- 疲労やいらいらする様子がみられたら、一休みして気分転換を促すようにします。
- 手順を簡単にする、日課をシンプルにする、手がかりを増やすなど環境の調整をすることが大切です。

## 高次脳機能障害の変化と回復

- ・何年もかけてゆるやかに変化していきます。回復の状況によっては、再び職業生活に挑戦することもできます。
- ・人それぞれ違う障害の特徴を、周囲が理解しサポートする必要があります。
- ・思いがけない病気や事故による障害のため、本人や家族にとって、以前との違いを理解し受け止めるのに時間がかかります。

できないことより  
できることをみつけよう

あせらずゆっくり、  
生活の中でリハビリを

## 福祉サービスの利用

後遺症の状況によっては障害者手帳や診断書を取得して、様々な福祉サービスを利用することができます。  
(障害者手帳に該当するかどうかの基準や手続は、それぞれの障害者手帳制度により決まっています。)

脳の損傷による後遺症



手足のまひや言語、視野の障害がある場合	身体障害者手帳
発達期（18才未満）に受傷した場合	愛の手帳
記憶や注意機能、社会的行動上の障害がある場合	精神障害者保健福祉手帳

# 高次脳機能障害の主な症状と対応のヒント

脳の損傷部位や程度により、症状の程度や現れ方は人それぞれに違います。また、下記の症状を複数併せ持つ場合が多いです。本人ができること（長所）とできないこと（短所）の両方を評価し、受傷（発症）前の生活習慣や嗜好、生活経験などを尊重した対応方法が望めます。

## 記憶障害

- 新しいことが覚えられない。
- 少し前の出来事や約束を思い出せない。



- ・スケジュール帳やカレンダー、タイマー等の代償手段を検討する。
- ・大事な物や日常的に使用する物の置き場を決めておく。（収納棚等には、内容物が分かるように表示をする。）
- ・手順書等のヒントを活用し、繰り返し練習する。

## 注意障害

- 気が散りやすい。
- 単純な作業でもミスが多い。
- 同時に複数のことに気配りができない。



- ・注意を維持できる範囲・時間内で作業を終え、休息を十分にする。
- ・作業をするときや大事な話をするときは刺激の少ない環境で行う。
- ・声かけで注意を促し、できたときは大いにほめる。
- ・興味のある作業から始めて、集中できる時間を増やしていく。

## 遂行機能障害

- 物事の優先順位がつけられない。
- 物事の要点が分からない。
- 行動に要する時間等の見当がつけられない。
- 間違えたときの修正や急な計画の変更に対応できない。
- 指示がないと次にすべき行動が分からない。



- ・1日のスケジュールや生活環境はシンプルに整理する。
- ・指示は、5W1Hで明確に、具体的に伝える。
- ・予定の内容は、事前によく説明をする。
- ・説明や指示内容は、メモをしてもらうかメモを渡す。（メモの内容については、要点、主旨の再確認をする。）
- ・困ったときに、相談する人や対応方法を決めておく。
- ・作業は、手順書を見ながら確認して行う練習をする。

## 社会的行動障害

- 感情や欲求のコントロールができない。
- 依存的・退行的な言動がある。
- 些細なことで怒りやすい。
- 物事にこだわりやすい。
- 自発的な行動がしにくい。



- ・環境の変化やマイナス感情への対処が困難で、ストレスをためやすいことを周囲が理解する。
- ・混乱なく安心して過ごせるように、生活環境を整える。（行動の手がかりが多い環境づくり）
- ・疲労に配慮をし、疲れる前に休息を取るように促す。
- ・イライラしたら、場を変えて相手との距離を取る。
- ・守るべきルールや本人の行動（使ったお金や食べた量など）は、確認しやすいように書面など見える形で提示する。
- ・意欲の低下がある場合は、興味を持てる簡易な作業から始める。
- ・行動のきっかけに、アラームなどを活用する。

## 半側空間無視

- 片側の空間（多くは左側）にある物や人、文章を見落とす。



- ・無視側の文の始まりや、テーブル、お盆の端に目印を付けて、無視側への注意を促す。
- ・無視側を意識して、見渡す習慣をつける。

## 失語症

- 話が理解できない。
- 話す、読む、書くことに困難がある。



- ・ゆっくりと短い言葉で一区切りずつ話の内容を確認しながら話す。
- ・図や写真、ジェスチャーを活用する。
- ・大事な用件は、家族などに伝えやすいように内容をメモにして渡す。

## 1. 東京都心身障害者福祉センターにおける取組

東京都では、平成18年度から東京都心身障害者福祉センターを支援拠点機関として、高次脳機能障害者に対する専門的な相談支援、広報・普及啓発、支援に携わる人材の育成に取り組むとともに、区市町村における相談支援体制や機関連携などのネットワークの構築を進めています。

また、自立した社会生活や就労などを目指す方に対して、地域の支援機関（就労支援センター、福祉事務所、就労支援事業所等）からの依頼に基づき、通所により、作業能力面、生活管理面、対人技能面等の評価と課題の整理などを行う「社会生活評価プログラム」や、職業評価、高次脳機能障害評価、作業課題によるトレーニング等を組み合わせた「就労準備支援プログラム」を実施し、高次脳機能障害のある方の社会参加に向けた支援に取り組んでいます。

## 2. 二次保健医療圏域における取組

高次脳機能障害は、ゆるやかな回復過程をたどるため、医療・福祉・介護等が長期間にわたり継続して連携を取りながら支援していく必要があります。そこで、区市町村単位で完結することが難しい医療機関との連携体制の構築を目的として、二次保健医療圏域ごとに高次脳機能障害者のリハビリテーションにおける中核医療機関を中心とした「専門的リハビリテーションの充実事業」を、平成22年度から開始しました（下図参照）。

平成27年度からは、島しょ保健医療圏域を除く12圏域において取り組まれており、圏域内で高次脳機能障害に携わる支援員などの技術や知識の向上を目的とした症例検討会や研修会の実施、圏域内連携体制の構築を目指す連絡会の開催等を通じて、ネットワークの充実を図っています。

## 3. 区市町村における取組

区市町村においては、相談支援の実施、介護・障害福祉サービス事業者や就労支援センター等の関係機関との連携による地域支援ネットワークの構築を目的とした「区市町村高次脳機能障害者支援促進事業」を、平成19年度から2区で開始しました。令和3年度には43区市町で実施されており、区市町村における体制整備も着実に進んできています（5ページ「相談窓口」参照）。

### 専門的リハビリテーションの充実事業 二次保健医療圏域と受託医療機関

